寄稿　台風被害

福祉避難所整備が最優先

自治体、計画立て直し急務

鈴木　秀洋

台風19号による死者の内訳は、60歳以上が7割と報道されている。阪神淡路大震災以降、高齢者や障害者、乳幼児ら特に配慮を要する人々には、一般避難所とは別に特別に指定される避難所が必要であり、「福祉避難所」の設置が求められてきた。

熊本地震前には「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」が改定されたが、その後の震災においても福祉避難所が機能しなかったとの報道ばかりである。それはなぜなのか。

まず、福祉避難所は多くの自治体で第2次的避難所と位置付けられている。そのため、一般の避難所整備よりも個別具体的な設置運営方法の確定などは後回しにされている。（内閣府によると、2018年10月1日時点で、指定避難所は7万5895カ所、うち福祉避難所は8064カ所）

二つ目は、具体的にいつ開設され、自らが要配慮者として福祉避難所を利用できるのか、仮に利用できるとしてどこの福祉避難所を利用できるのかが事前に周知されていないことである。多くの自治体では、福祉避難所の利用手順は①一般避難所への避難②そこでの申し出と判定③福祉避難所への自主移動促進―という流れになっている。

これらの課題に対しては、災害時の利用手順を強調するのではなく、平時から利用基準を設定・公表し、周知および個別通知を徹底すべきなのである。なぜなら、介護認定や障害者手帳交付状況などから、命（関連死）の危険に直結する人々が相当数地域にいることは、自治体にとっては平時から明らかだからである。

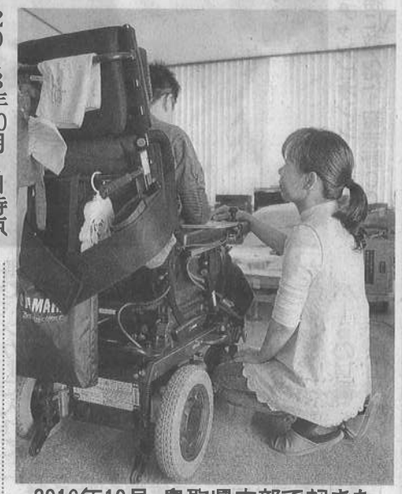
まずは、福祉避難所整備に関する現行の国のガイドラインの改定を望む。しかし、改定を待たずとも、自治体ごとで、地震や台風など震災の形態に合わせ、かつ、地域の状況に応じた福祉避難所の設置運営や避難支援（避難行動要支援者名簿の整備や個別計画の推進）について、連動的な具体的な計画を立て直すことが急務である。

一般避難所に行かなかった人々にヒアリングすると、福祉避難所があることを知らなかったとの声を聞く。今回の台風時にも「避難してください」との無線やニュースが流れるが、ではどこに行けばよいのか、その施設には自らが命を紡ぐ人的・物的設備があるのか、それが分からなければ避難できる訳がないとの声が聞かれる。

避難行動を起こすことが、まさに命がけの人々への具体的対策が必要となる。要配慮者のための福祉避難所の整備は、最優先の喫緊課題である。

（日本大危機管理学部　准教授）

東日本大震災で宮城県石巻市の中学校の体育館に設置された福祉避難所＝2011年3月



2016年10月、鳥取県中部で起きた地震のため避難していた小学校の体育館から、福祉避難所に移動した親子＝鳥取県倉吉市

すずき・ひでひろ　1967年埼玉県出身。東京都文京区危機管理課長などを歴任し、2016年から現職。地方自治法を担当。災害弱者の法制度設計や運用に詳しく、危機管理行政法の分野を切り開いている。著書に「自治体職員のための行政救済実務ハンドブック」など。

くらし

歳々元気

南雲つぐみ

イラスト・山本祐司

竜田揚げの名の由来

「竜田揚げ」は、肉などを酒としょうゆで味付けし、片栗粉をまぶして揚げた料理のこと。今では鶏肉を使うのが定番だが、筆者が子どものころは鯨肉がよく使われ、鯨の唐揚げが竜田揚げだと思っていた。

当時は鯨肉を使った理由は、安価で子どもが喜ぶボリュームの出るおかずだったからだろう。臭みを取るために、しょうゆや酒、ニンニクに漬け込んで油で揚げたのだ。

ところで、この「竜田」が秋のモミジにちなんだ言葉であることを知ったのはつい最近だ。

百人一首でも知られる「ちはやぶる　神代もきかず竜田川　からくれないに　水くくるとは」（在原業平朝臣、「古今集」）は、奈良県斑鳩（いかるが）の地を流れる竜田川に紅葉が浮き、まるで川の水を鮮やかな紅色のしぼり染めにしているようだと詠んだものだ。

しょうゆで下味を付けた肉が油の中で色を変えていく様子が、竜田川の流れを紅色に染める紅葉に似ているため、こう呼ばれるようになったという。（「料理名由来考」志の島忠、浪川寛治、三一書房）。

（医学ライター）

きょうの運勢

藤宮観月

旧10月2日。大安。

【1月】北と西が鬼門。ことに出張や遠出のさい。

【2月】無計画な出費が命取りに。収支のバランス。

【3月】運気上昇中。大きな仕事やむずかしい交渉。

【4月】あとひとふんばりが必要だ。粘り強く。

【5月】あいまいさが誤解を招く。意思表示は明確に。

【6月】悪戦苦闘が続くが、結果は好成績。Cの法則。

【7月】目立つと損をする。調子に乗って行き過ぎ。

【8月】雑用に追われてんてこ舞いする。乗り物。

【9月】まとまった臨時収入がある。買い物は慎重に。

【10月】横ヤリや中傷にひるまぬこと。自信こそ命。

【11月】運気はやや先細り気味だ。大切な用事は。

【12月】同情心にもときによりけり。人間関係。

教室にてっがくを

河野　哲也

哲学対話で重要なのは、話し合いを深めることです。「深める」とは、議論の前提を問い直すこと。例えば、運動会でどの種目を行うかを話し合っている最中に、誰かが「運動会の目的って何だろう」と問いだしたなら、その話し合いは一段深まったと言えます。議論が深まることこそが哲学的になるということです。

そのためには、よい質問を出し合うことが大切です。役に立つテクニックを挙げてみましょう。

議論の前提を問い直す

一つ目は、「なぜ」「どうして」という、理由を尋ねる問いを何度も繰り返すことです。「なぜ、徒競走をするの？」「みんなで参加しやすいから」という応答があれば、「なぜ、みんなで参加する必要があるの？」と、重ねて尋ねましょう。より根本的で原則的な応答を求めるのです。

次に、「〝参加しやすい〟ってどういう意味？」など、何げなく使ってしまう言葉を拠点化します。

「いぬのきもち」のき・も・ち

11

人の思い込みでもいい

優しい

「楽しいお出掛けのときに限って、キャンキャン鳴きながら飛び付いて、『自分も連れて行って』アピールがすごいんですよ」。この手の話は愛犬家からよく聞く。「帰りが早いと出迎えるのに、遅いとそっぽを向いて知らん顔」とセットだ。私も何度か経験がある。

しかし、獣医師さんたちにこの話をすると、そろって「残念ながら、ほとんどは飼い主の思い込み」と言う。種明かしをするとこうだ。

「連れて行ってアピール」は、飼い主がオシャレをするなど普段と様子が違うことへの興奮。さらに、いつもと違う格好